



レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第 16 回研修会・交流会



秋の風が感じられる 2019 年 9 月 19 日（木）に天神・BiVi 福岡 で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと、DLBSN 福岡の第 16 回研修会・交流会を開催しました。顧問医の坪井義夫先生のレクチャーと、福岡県若年性認知症支援コーディネーターの中村さんの特別講演、グループワークを行いました。40 名の参加があり、このうち初参加が 15 名でした。

レクチャー「レビー小体病認知症について」

顧問医である坪井先生から、レビー小体型認知症についてレクチャーがありました。まず、認知症のとらえかたとして 3 点を説明されました。認知症は加齢によって誰にでも訪れます。加齢によるもの忘れから MCI（軽度認知障害）、認知症へ進行していくこともあります。この MCI とは、もの忘れは頻繁にあるが生活は自立できている状態で、1 年間で 10%、5 年間で 80%が認知症になる可能性があります。そのため、よりはやく「気づき」が大事で、早期診断・治療によって進行予防は可能です。早期発見のポイントを知っておくことが必要だとお話しされました。その受診方法や認知症疾患医療センターの役割について、説明がありました。認知症は脳神経内科や精神神経科を受診するとよいこと、各地域では認知症サポート医、福岡市では相談医に相談するとよいことが説明されました。最後に、早期診断を受けて、生活スタイルを作っていくことが大切だとお話しされました。

特別講演「福岡県若年認知症サポートセンターからの報告」

福岡県若年認知症サポートセンターとは、福岡県が若年性認知症の人やその家族からの医療・福祉・就労等の相談を目的に春日市クローバープラザに設置したものです。その相談員である福岡県若年性認知症支援コーディネーターの中村益子さんから、活動について紹介されました。相談内容は、主に病院の紹介や主治医と相性が合わないなどの医療関係の相談、自立支援医療など制度関係の相談、高齢者の施設になじめないといった施設関係の相談、対応方法といった

介護関係の相談などです。特に制度関係の説明では、障害年金はいつ申請するか（働いているときか退職後か）で変わってくること、制度はあっても申請しないとサービスが受けられないといったお話しがされました。また、交流の場として、県内4か所（北九州、福岡、筑後10/12、筑豊11/9）で若年性認知症交流会が行われています。当事者・家族・支援者グループに分かれて話をすることで仲間づくりに繋がっているようです。昨年度は138名の方が参加されました。その輪が広がり、毎月第2日曜日にクローバープラザで「さろんパス若年性認知症サロン」（みなさんでお食事を作ります）が開催されています。その様子についてもご紹介されました。中村さんは、できるだけ早く良い医師・専門職に出会うことが大事だと強調されていました。

グループワーク

初めての試みとして、ご本人、ご家族、専門職の3つのグループに分かれ、椅子を囲んでディスカッションを行いました。それぞれのグループには、顧問医、協力医、認知症看護認定看護師が入り、お話し共有やアドバイスが行われました。参加者同士の交流にもなっていたようです。

次回は、ご本人とご家族から「3年前にレビー小体病と診断された夫と今の私達」をテーマにお話しして頂きます。

次回の研修会・交流会は、2019年12月12日（木）18時～ BiVi 福岡です。



報告者：DLBSN 福岡 副代表坂梨左織